様式４

学校番号　（　中　１５　）　学校名　（光が丘第一中学校　）　教科名（ 数学 ）

指　導　技　術		観　点　別　の　授　業　改　善　の　視　点			
教 師 の 指 導 （授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等）		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	数学的な見方・考え方を向上させるた め の 手 だ て	技能を向上させるた め の 手 だ て	知識・理解を向上させるた め の 手 だ て
導入	(授業規律)チャイムと同時に授業を開始し、授業道具の忘れ物がないかを確認して指導する。 (板書)本時の目標を板書し、課題意識をもたせる。 (発問)前時のポイント事項を確認するための発問をし、全員に確認する。 (個別指導)復習小テストを実施し、理解が不十分な生徒には、放課後補充指導を実施し、基礎学力の定着を図る。	・前時の基本事項を確認し、次のステップへの意欲をもたせる。 ・視覚に訴えるような板書を工夫する。	・前時の基本事項をもとに次のステップへの見通しをもたせるようにする。 ・すぐに解説するのではなく、ヒントを与え、生徒自らの力で答えを導かせ、分かる喜びを経験させる。	・復習小テストを実施し、計算技能や作図技能を向上させる。 ・問題演習の時間を増やしたり、学び直しの時間を設け、計算技能を向上させる。	・ポイント事項や公式などは、色チョークやマグネットボードを活用してわかりやすくまとめる。 ・復習小テストを実施し、知識・理解の定着を図る。
展開	(教材の工夫)授業プリントを利用したり、実際に生徒自身に作業をさせ、生徒の能動的な学習活動を増やす。 (説明・発問)教師の説明をできるだけ控え、生徒自らが考え、発見できるように発問を工夫する。 (板書)板書は必要最小限にとどめ、生徒の反応を確かめながら、発言を促していく。 (個別指導)基本事項は、全員が習得できるように反復練習をするが、理解の早い生徒には、発展的な学習プリントに取り組ませる。 (学習環境)生徒が、自分の考えをはっきりと説明でき、お互いに学習し合う雰囲気を大切にする。	・学習のポイントと本時の目標を明確にして、学習活動に取り組ませる。 ・生徒の考えの良さを教師が認め、自分の考えの良さを発表しやすくする。 ・生徒が目的意識をもって主体的に学ぶ意欲をもたせるようにする。	・少しでも理解できると感じさせるために指導を工夫する。 ・多くの問題を試行錯誤し、生徒自らが考え、発見できるように、教師の説明を控え生徒の考えを引き出すように発問を工夫する。 ・理解の早い生徒には、黒板で他の生徒にもわかるように説明できるように指導する。	・計算や作図の基本は、生徒に発問しながら全員が習得できるように反復練習をする。 ・個々の生徒に応じた机間指導により、理解を定着させる。 ・苦手な生徒には、学力向上支援講師による個別支援指導をする。	・一斉指導の中で、ポイント事項や公式を全員で確認する。 ・知識を定着させるためのワークやまとめのプリントを工夫し、問題演習の時間を設定する。 ・復習小テストを実施し、知識・理解の定着を図る。
まとめ	(授業構成)本時のポイント事項を確認するとともに、演習の時間を確保することで、学習の確認をする。 (評価)まとめの演習を通して学習の理解度を確認し、自己評価とする。また、生徒発表をすることにより、生徒同士の相互評価とする。	・生徒の質問を受け「わかった」「できた」「できそうな気がする」という気持ちになって帰ることで、家庭学習への動機付けとなるようにする。	・数学的な見方・考え方に関する家庭学習課題を出し、多くの問題に取り組むことができるようにする。	・まとめの問題により、基本的な技能を習得できたかを確認する。 ・理解が不十分な生徒には補充指導を実施する。	・本時のポイント事項を確認し、知識・理解の定着を図るための家庭学習課題を出す。